

日本聖公会 神戸教区報

神のおとずれ

人生最強のパートナー

司祭 ヨハネ 芳 我 秀 一

『そう言うってから、彼らに息を吹きかけて言われた。『聖霊を受けなさい。』』

(ヨハネ伝20・22)

人生にとって極めて重要なことは何でしょうか。それは、良きパートナーを持つことです。人間は自分一人で生きることにはできません。そのため、神は最強のパートナーをわたしたちに与えて下さいました。それが聖霊降臨です。聖霊の到来によって、世界は新しい時代を迎えました。それまで、孤独な人間が支配する古い滅びの世界でしたが、聖霊が降臨されてからは教会の

宣教を通して、神の子とされたキリストの弟子が増えることによって、この地上に神の国を創造しようとされるのです。

〈聖霊と教会の発展〉

ところで、わたしが、聖霊降臨の体験をしたのは教会現場に出てまもなくのことでした。初めて赴任した教会は当時も若い信徒の少ない教会でしたが、わたしは教会から若い人を増やして育てて欲しいと依頼されました。難しい課題です。教会に何も無いところから若者をつくり出す創造の業です。将来性のある若

2025年
8月号

発行所

神戸教区事務所

TEL 078(351)5469

FAX 078(382)1095

<https://www.nskk-kobe.org/>


発行責任者

司祭 林 和 広

印刷所

文明堂印刷所



い人を育ててこの教会を大きくして欲しい。まさに将来の教会形成を期待されていました。

しかし、現実は思い通りになりません。何度も失敗しました。子供たちを集めることはできても、継続することが出来ないのです。ところが、

「もうだめだ」と思ってもあきらめないでひたすら神に祈り求めていると奇跡が起き始めたのです。ひとり、二人、三人と子供たちが教会に集まり始めました。人間の思いに反して、思いもよらないところから子供たちが与えられるのです。そして、日曜学校が

何も無いところから誕生しました。彼らは教会を離れることなく、やがて中学生、高校生となり活動の幅を広げてゆきました。この時期、子供たちを中心とした教会形成に努めていると、周囲の大人たちにも影響を与え始めて確かに聖霊が働いていると感じました。聖霊が渦を巻いて吹き始める時、教会も活発に大きく動き始めるのです。

この聖霊降臨の出来事が、その後のわたしの牧会伝道の原点です。使徒言行録には一日で三千人が洗礼を受けて仲間になったという記事がありますが、徐々にキリストの弟子たちが増えていく教会の姿の中にも聖霊は働いておられます。わたしたちの教会には既に人生最強のパートナーが与えられ宿っておられるのです。諦めないで、聖霊の働きを信じて一緒に祈り求めて参りましょう。

(徳島インマヌエル教会牧師・
徳島聖テモテ教会・
富岡キリスト教会・
鳴門聖パウロ教会管理牧師)

日本聖公会沖縄週間

沖縄の旅に

参加して

神戸聖ミカエル教会

マルセラ 宮田 美樹

以前から参加したいと思いつながら機会がなく、ようやく参加出来ました。

初めて降り立った沖縄本島は光の強さが違うようで、すべてがキラキラと輝いていました。でも、その美しい景色とは裏腹に、というより美しさを生みだす場所、地形だからこそおきた壮絶な悲劇を垣間見ました。

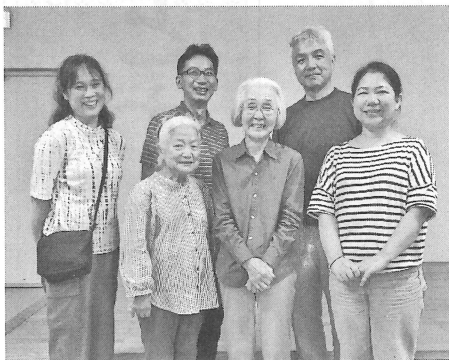
「平和祈念資料館」で住民の見た沖縄戦の実相に触れ、外に出ると、「平和の礎」に彫られたお名前の多さに圧倒されました。

「糸数アブチラガマ」では、ガイドの方が説明をしながら「想像してみてください」と問われましたが、語られたガマの内部の状況は想像を絶する悲惨さで、頭に浮かぶのは聖歌423番の2節「主よ、

あなたは どこにおられた」という叫びでした。

最終日、沖縄教区の慰霊の日礼拝では、朴美賢司祭(沖縄教区)が、「イエスが与える平和とは、「戦争がない」という以上のもので、私たちが尊い『人』として生きること」「愛の反対語は無関心と言われているが、平和の反対語も無関心」と語られました。光あふれる沖縄で、沖縄の方とともに歌う423番は、重い言葉に明るいメロディーとリズムがつけられている理由がわかる気がしました。

これからも、ともにささえ、祈りつつ、平和を作っていくしたいと思います。



2023年 日本聖公会宣教協議会からの呼びかけ⑨ 最終回 3人々の声に耳を傾けよう(神が創られた自然・世界・社会) 「世界のうめきや叫びに向き合おう…」

世界の聖公会(アングリカン・コミュニオン)とつながりながら」

司祭 ダビデ 林 和 広

16世紀のイングランド宗教改革において誕生したイングランド教会(The Church of England)は、その初めはすべての国民が信徒という国民のための教会でありましたが、その後、イングランドの植民地及び植民地以外のところに伝道が行われてその活動は拡大していきます。それぞれの地にあるイングランド発祥の聖公会は、アメリカ聖公会の誕生を機にイングランド教会の歴史的な伝統を継承しながら聖公会におけるグローバルな交わりを意識するようになり、「アングリカン・コミュニオン」が形成されます。アングリカン・コミュニオンの交わりは、しばらくは英語圏を中心にした交わりであ

りましたが、第二次世界大戦後、アジア、アフリカ諸国において独立した管区が相次いで誕生します。そのような状況の中、戦後初めて開催された聖公会の国際大会においてマイケル・ラムゼイ・カンタベリー大主教は、アジアにおける教会のリーダーシップの成長やアフリカの教会の将来に言及するとともに、これからのアングリカン・コミュニオンは世界全体に対して責任を担う共同体としてキリストが示されたように一粒の種として自らの命を献げていく使命があることを述べ、そして、「相互責任と相互依存(Mutual Responsibility and Interdependence:」

「MC」というビジョンを示されました。このビジョンは、アングリカン・コミュニオンに属する教会が世界の様々な必要に応答する教会共同体として相互に与え合い、協働していく道を示すものでありました。

今日、国内外において様々な問題が勃発し、あらゆるところでうめきと叫びの声があがられております。自らの教会の存続だけに心を奪われるのではなく、キリストの福音のため、そして他者に仕えるためにわたしたちの教会が存在していることを改めて想起し、これからの宣教のビジョンを描いてまいりましょう。

世界の聖公会の動向

司祭 ポール・トルハースト
(管区事務所渉外主事)

英国教会の

礼拝参加者数が
4年連続で増加

暫定的な統計によれば、英国教会に通う信徒数は昨年4年連続で増加した。

統計によると、英国教会の信徒全体の定期的な礼拝参加総数は2024年に百二万人に達し、1.2%増加した。

新型コロナウイルス感染症のパンデミック以降、英国教会の「礼拝者数」(各教会の正規の信徒の総数)が百万人を超えたのは2年連続となった。2024年の標準的な日曜日の信徒数はさらに1.5%増加し、58万二千人となり、近年に比べて増加傾向が続いている。

また初期の統計によれば、1週間の総参加者数は前年比1.2%増加し、昨年は七十万千

人強となった。

この増加は、16歳以上の成人の出席率の回復によるもので、日曜日の平均参加数は1.8%増、週ごとの来場者数は1.5%増となった。

全体的な数字を見ると、対面での来場者数はパンデミック前の水準に完全には達していないものの、それに近づいていることを示唆している。

ヨーク大主教のステイブン・コトレル師は、「英国教会は、イングランドのあらゆるコミュニティにおいて、イエス・キリストの福音を伝え、隣人を愛し、仕えるために存在しています。ですから、より多くの人々がイエス・キリストを信じるようになり、人生が変えられているという新たな兆候を目にすることは、大変励みになります」と述べた。

彼はさらにこう付け加えた。「これはほんの一例であり、過去1年間に教会に通い始めた人たちの年齢は分かりませんが、他の証拠によると、その多くが若者であることが示唆されています。これは、日々地域社会に福音を伝えて

いる教会員全員の信仰と希望の証です。そして、この不確実な時代に、より多くの人々がイエス・キリストの愛と恵みのメッセージを知るようになることを祈っています。」

英国教会のビジョン・戦略担当ディレクターであるデビー・クリントン氏は、「私たちの統計は単なる数字ではありません。それぞれの統計は、全国の地域社会に奉仕し、地域教会の一員である一人ひとりの姿を表しているのです。2024年には、都市部と農村部の両方で教区の成長に関する刺激的な話を聞き、目にしました」と述べた。

彼女はさらに、「全国的に、私たちは若者一人ひとりが、手の届く範囲で子ども、若者、家族のための活動に積極的に

参加できるようにすることを目指しています」と付け加えた。

(神戸MtSチャプレン)

《社会部記事》

南海トラフ地震に備えて

集合場所を話し合う

世間では、2025年7月に大災害が起こるとの噂が流れていました。恐怖を煽る噂やデマは排除すべきですが、地震や色々な災害が起こったら、どうするか話し合うきっかけにするのはいいことだと思います。

特に地震は、いつ起こるかわかりません。家族が通勤通学途中などに地震が発生した時には、互いの生存確認だけでも時間や手間がかかってしまいます。様々なデジタルデバイスに頼ることも可能ですが、通信障害やスマホの電源が持つかなど、必ず役立つとは言え

ない面があります。

そこで、押さえておきたい、別の安否確認方法も相談しておきましょう。それは落ち合う場所を決めておくことです。災害発生時の状況を想像するために、以前話したハザードマップを利用し、色々な場合を想定しつつ、数日かけてでも集まる事ができる集合場所を考えておきましょう。

(司祭イサク 坪井 智)



鳩だより

《敬称略》

祝 洗 礼

6月23日（月）
パウロ 石倉 兼利
米子聖ニコラス教会

教 籍 移 動

4月20日（日）
ベネディクト 長田 尽希
神戸昇天教会から
広島復活教会へ

6月6日（金）
モニカ 永野 園子
マグダラのマリア

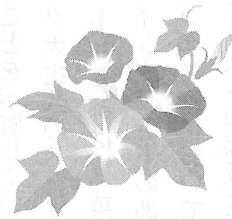
パウロ 永野 光唯
広島復活教会から
大阪教区聖三一教会へ

ご 逝 去

4月14日（月）
メラニア 釣田 照野
神戸聖ペテロ教会

5月4日（日）
ルシア 進藤 秀子
神戸聖ミカエル教会

5月17日（土）
ヤコブ 宮地 寛仁
広島復活教会



6月1日（日）

クリスチナ 高橋 和生
米子聖ニコラス教会

6月15日（日）

マルタ 新井 俊
神戸聖ミカエル教会

神戸教区教役者修養会

6月25日（水）・26日（木）

に山口県周南市の紫水園で、
18名が参加して行われました。

神戸教区管理主教の入江修
主教から「今日、日本聖公会
そして私たちが抱える課題を
中心に、教役者の働き方、ま
た教区主教を中心とした教役
者の体制などについて」とい
うテーマで講話していただき
ました。

その中でも、司祭の務めの
一つとして「祝福を与える務
め」について語られ、洗礼、
聖餐の二つの聖儀をはじめ聖
儀的諸式もすべて祝福をもつ
て終わり、イエスから託され
た務めの根底にあると語られ
ました。

新約聖書で「祝福する」と
記されている言葉は、「幸せ
にする」という意味で、司祭
はそれを人々に与えると言っ
た。恵みと喜びに満ち溢れた尊い
務めであることを感じていた

だきたいと語られました。
また二日目には、改正祈祷
書の試用第1版の式文を用い
ての感謝聖餐式を行いました。
例年よりも一日少ない一泊
二日の修養会でしたが、充実
した研修と交流、修養の時を
持てたのではないかと思います。

来年は山陰伝道区の担当で
行われる予定です。
（担当・広島伝道区）

9月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2025年9月4日（木） 午前10：30

場所 神戸聖ミカエル大聖堂

司式 司祭 八代 智

説教 司祭 瀬山 会治

どなたでもいらしてください

* 9月の記念逝去教役者

1日	伝道師	緒方 政枝
3日	伝道師	上西 好古
4日	執事	ラザロ
5日	伝道師	倉敷 昇子
9日	伝道師	三宅 福恵
10日	司祭	ステパノ
10日	司祭	片山 民治郎
10日	司祭	森 淑次郎
11日	司祭	ステパノ
11日	司祭	高橋 正平
12日	主教	ヘンリー
12日	主教	エドワード
13日	宣教師	レティシア
16日	司祭	ウィリアム
17日	司祭	マレー・ウォルトン
17日	司祭	アブラハム
17日	司祭	米村 勇雄
20日	伝道師	吉田 照子
20日	司祭	ヨシュア
20日	司祭	前田 次郎
21日	伝道師	ルデア
21日	伝道師	高見 テル子
25日	宣教師	ドロシー
25日	宣教師	グレッグソン